

## SY6-3

## 小児への吸入指導に求められるもの

上荷 裕広

すずらん調剤薬局

小児気管支喘息において吸入療法は欠かせない治療法である。しかし吸入薬は内服薬と異なり、吸入手技が適切に行われなければ十分な効果は得られない。さらに治療を継続する上で、手技の欠落や患児のアドヒアランスの低下が危惧される。そこで親と患児が円滑に吸入療法に取り組めるための正しい吸入指導とはなにかを考えたい。まずは何よりも患児が嫌がることなく吸入療法に取り組めるように指導することが肝要である。乳児期では親に、幼児期では親と患児に対する動機づけや正しい吸入手技を獲得できるよう、分かりやすい説明が必要であることから、なにをどのように伝えるかが要点となる。次いで継続した吸入療法を行う上で、手技の欠落や実行度の低下を招かないために、どのような指導や支援が必要なのかを考える。吸入療法によって喘息のコントロールが改善されるようになった今、患児が適切な吸入を実践できるための吸入指導を検討する。